

あらおスマートシティの取組みと道の駅における実現イメージについて

1. スマートシティとは

スマートシティとは、先進技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種の課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出する取り組みです。

(スマートシティ官民連携プラットフォーム事務局)



荒尾市では、令和元年8月23日に「あらおスマートシティ推進協議会」を設立しました。南新地地区土地区画整理事業による新しいまちづくりを実証・実装フィールドに、先進技術を活用した、データの利活用の促進や住民・来訪者の健康増進、エネルギーの最適活用、移動・輸送の最適化、災害に強いまちづくりに関する取り組みなどを産学官が連携し、また、国による支援も受けながら進めていきます。

2. 道の駅における実現イメージ

例1：屋根置き太陽光＋蓄電池

⇒ 災害による大規模停電時にも電力が確保され、防災拠点としての機能を発揮

例2：モビリティステーションの併設（デマンドタクシー、自動運転バス、電動キックボードなど）

⇒ 荒尾駅や各観光施設とをネットワークで結び、域内回遊を促進

例3：AI＋観光情報発信

⇒ 一人ひとりに最適な観光情報を提供できるAIコンシェルジュ機能を実現

例4：魔法の鏡と連動した食事メニューの提案

⇒ 鏡の前に立つだけで体調に応じたおすすめのおすすめの健康メニューを提案



例5：直売施設の売れ筋予想

⇒ AIを活用し、直売施設の月毎、曜日毎の売れ筋を予測し、出荷者に伝える。

画像提供：COI東北拠点／東北大学

例6：センシング技術の活用

⇒ センシング技術を活用した万引き対策、商品の在庫状況の管理

など